

寝室が、ウェブカメラから、覗かれる？

～秘密保護法・共謀罪と監視社会を考える市民のつどい～

「あ～、お風呂入ってさっぱりした～。パジャマに着替えてネットでも見よっと。」とノートパソコンを開いた途端、画面の上に付いているウェブカメラから政府の職員が覗いてる・・・そんなことを考えたことはありますか？

この日本でも、市民と市民の会話の内容を重視して、他者を侵害する行為に及ぶのかどうか分からない段階で市民を処罰する恐れのある共謀罪（テロ等準備罪）が制定・施行され、監視社会化が進んでいます。

安心安全のために、私達市民は、どこまでプライバシーを国家に露わにしていけるのか？このことを今、真剣に考える時が来ているのではないのでしょうか？一方で、アメリカでは全ての公的情報が市民に開示されるのに、日本では「のり弁」状態と言われる黒塗り状態の資料しか開示されないという問題も、「情報公開」が叫ばれる今、あわせて考える時が来ているのではないのでしょうか？

京都弁護士会は、オリバーストーン監督作品「スノーデン」を上映し、立命館大学松宮孝明教授から、監視社会と共謀罪、特定秘密保護法の問題をご講演いただき、この問題を市民の皆さんとご一緒に考え、声をあげていきたいと思います。皆様のご来場をお待ちしております。



映画『スノーデン』
を上映します！

日 時 2017年12月10日（日） 13時～16時30分

（開場12時30分）

場 所 京都弁護士会館 地階大ホール（公共交通機関をご利用下さい）
京都市中京区富小路通丸太町下ル（お問合せ：075-231-2378）
アクセス方法は裏面ご参照



入場無料

申込不要

先着順

主催：京都弁護士会

共催：日本弁護士連合会

裏面へ

1. 映画：スノーデンのご紹介

たったひとりの若者が世界中を震撼させた！史上最大の内部告発“スノーデン事件”の衝撃的な真実

匿名ではなく自らカメラの前に立ち、エドワード・スノーデンと名乗って素性を明かしたその青年は、なぜ NSA や CIA から得られる多額の報酬と輝かしいキャリア、恋人と築き上げた幸せな人生のすべてを捨ててまで重大な告発を決意したのか。アメリカ政府が秘密裏に構築した国際的な監視プログラムの存在を暴露したスノーデン。はたして彼は英雄なのか、国家の裏切り者なのか。ハリウッドきっての社会派の巨匠オリバー・ストーンが史上最大の内部告発“スノーデン事件”の全貌に迫った問題作、それが『スノーデン』である。

(※上記は公式サイトで紹介文—<http://www.snowden-movie.jp/about/>)

2. 松宮孝明立命館大学教授プロフィール



松宮孝明さん（立命館大学教授）

●主要論文)「共謀罪」と「組織犯罪準備罪」(法律時報)、生命刑(死刑): 国境を越えて見てみれば(法律時報)、「ポスティングと住居侵入罪」(立命館法学)、その他多数

●研究発表等) 福島原発事故と刑事責任(国際犯罪学会 2011 年大会)、量刑に対する責任、危険性および予防の意味(日独シンポジウム「量刑法の基本問題」)、組織犯罪対策に見る『自由と安全と刑法』——共謀罪立法問題を含む——(日本刑法学会第 86 回大会)、「共謀罪」を問う: 法の解釈・運用をめぐる問題点(法律文化社)、その他多数。

●2017年6月1日、共謀罪法案審議が行われている参議院法務委員会において、参考人として、同法案は国際組織犯罪防止条約(TOC 条約)締結との関係では不要という立場から発言を行った。

-----< 京都弁護士会へのアクセス >-----

京都弁護士会へのアクセス

- ①地下鉄「丸太町」駅から徒歩 8 分
- ②京阪「神宮丸太町」駅から徒歩 10 分
- ③バス停「裁判所前」から徒歩 2 分
- ④バス停「河原町丸太町」から徒歩 7 分

